

光・赤外線天文学研究教育 大学間連携事業と共同利用

泉浦秀行(岡山天体物理観測所)

岡山UM@広島大学、2011・08・10

1. 事業の内容
2. 活動の現況
3. 共同利用への影響

1. 事業の内容

「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築
- 最先端天文学課題の解決に向けた大学間連携共同研究 -」
(特別経費、H23－H28、初年度予算配分99,858千円)

・「日本の大学と国立天文台が国内外に持つ中小の望遠鏡を有機的に結びつけ、世界に先駆けて突発天体の即時連続フォローアップ観測の地球規模ネットワークを構築し、大望遠鏡では達成困難な研究領域、特に時間軸の探究の領域で、最先端研究を共同して行うことにより、大学での教育と研究を促進することを目指す。」

+ 光・赤外線天文学の一層の発展

+ 大学の教育研究基盤の強化

+ 連携による特色ある天文学研究の創出と人的交流の活性化

+ 天文学の研究教育拠点の形成

・参加機関

H23年度(初年度): 北海道大学、東京大学、東京工業大学、

名古屋大学、京都大学、広島大学、鹿児島大学、国立天文台

H24年度(概算要求): 参加機関を拡大させ、増額要求へ。

2. 活動の現況

- ・人員雇用

北海道大学: 渡辺誠、 東京大学: 上塚貴史、 東京工業大学: 齊藤嘉彦、
名古屋大学: 永山貴宏、 広島大学: 秋田谷洋、 国立天文台: 黒田大介

- ・協議会発足

- ・メーリングリスト開設

- ・ホームページ開設

- ・キャンペーン観測実施(2011.04-05)

- ・キャンペーン観測まとめの会(2011/05/19-20 @NAOJ三鷹)

- ・「北海道大学、東京大学、東京工業大学、国立天文台、名古屋大学、
京都大学、広島大学、及び鹿児島大学間の光学・赤外線天文学
観測研究に関する覚書」に参加機関の総長、学長、機構長が調印

- ・記者会見

- ・連携事業研究会(2011/12?, @石垣島?)



3. 共同利用への影響

- ・人員雇用

- ＋観測所のマンパワーが(みかけ)上昇

- ・キャンペーン観測

- ＋2011年度は観測所時間のサイエンス時間で対応、2晩x2回

- ＋より頻繁な、または、一回当たりを長い観測要求には現状対応できない

- ⇒ 実質的に共同利用夜数が減る可能性

- ・突発天体対応観測

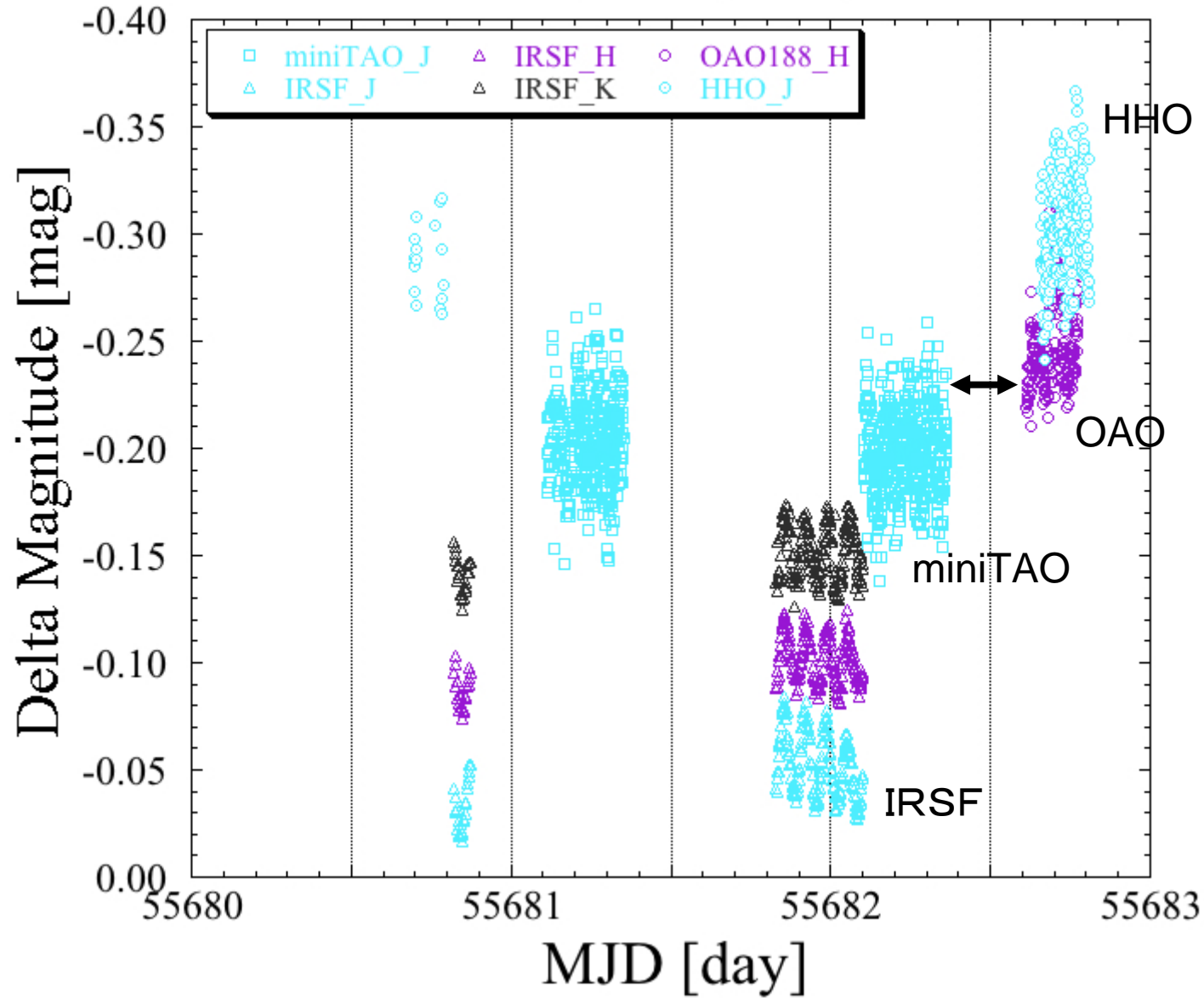
- ＋所長裁量のToO以外には、現在、まだ受け入れ体制がない

- ＋岡山ユーザーへの周知、理解はこれから

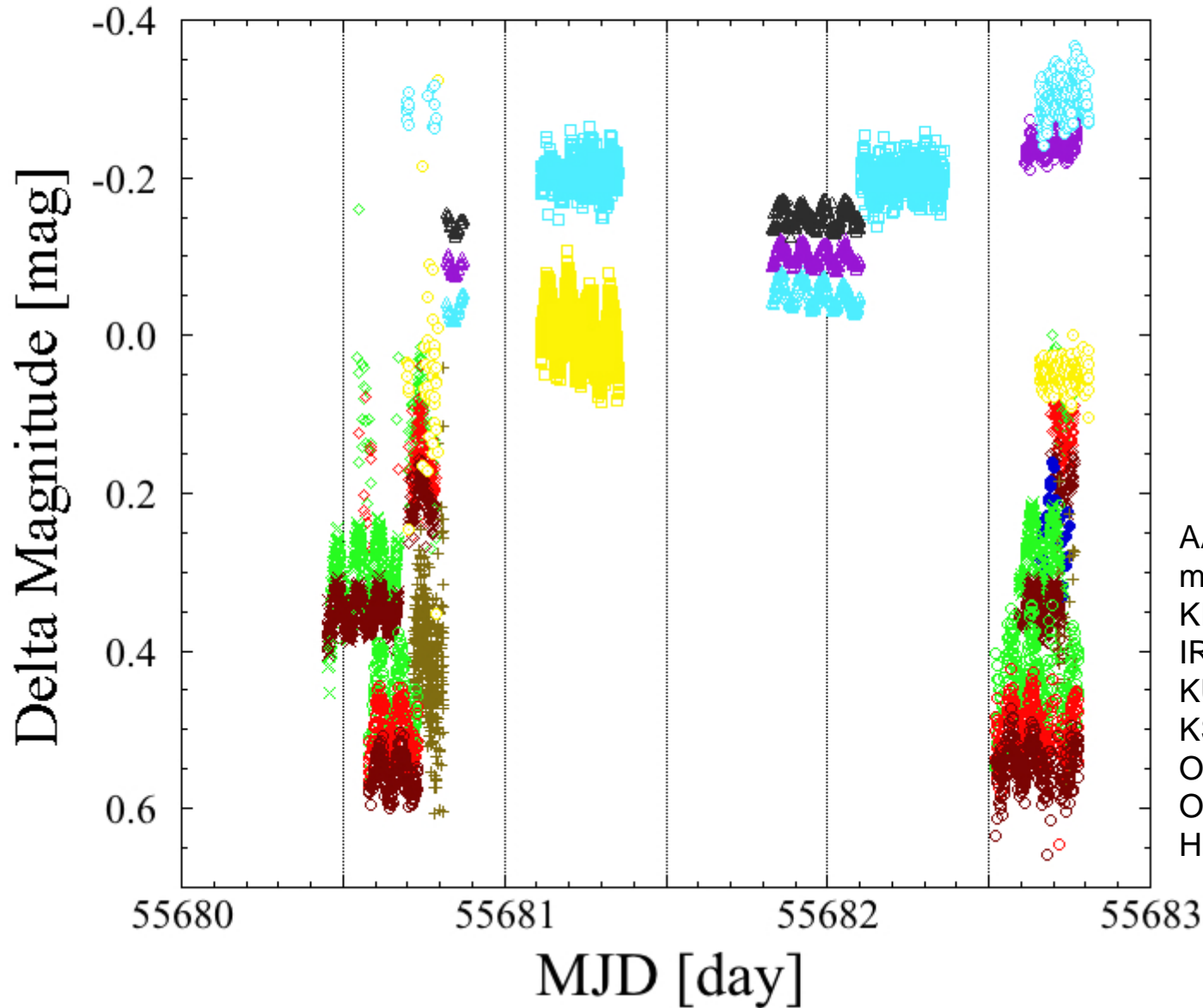
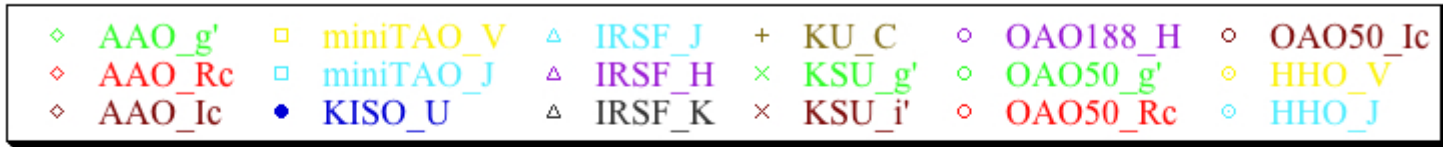
⇒ 共同利用夜数が減る可能性

(観測所=OAO)

IP Virginis (JHK)



IP Virginis



AAO = 東工大明野観測所
 miniTAO = 東大miniTAO
 KISO = 東大木曾観測所
 IRSF = 名大IRSF
 KU = 京大
 KSU = 京産大
 OAO188 = 岡山観測所188cm
 OAO50 = 岡山観測所50cm
 HHO = 広大